



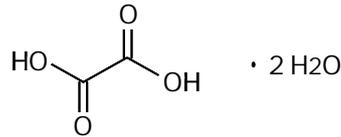
安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/08/30
SDS整理番号 15101950

製品等のコード : 1510-1950
製品等の名称 : N/100(0.005mol/L)しゅう酸溶液
推奨用途 : 試薬(容量分析用)
使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約



GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体 : 区分に該当しない
自然発火性液体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分に該当しない
急性毒性(経皮) : 区分に該当しない
皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない
生殖毒性 : 区分に該当しない
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分に該当しない
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分に該当しない

環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない

絵表示又はシンボル : 該当なし

注意喚起語 : 該当なし

危険有害性情報 : 該当なし

注意書き

【安全対策】
保護眼鏡、保護手袋、保護衣、呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】

該当なし

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、

現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	混合物(しゅう酸の水溶液)
化学名、製品名	:	N/100(0.005mol/L)しゅう酸溶液 (英名)N/100(0.005mol/L)Oxalic acid solution
成分及び含有量	:	しゅう酸二水和物、0.063w/v%(0.063w/w%) 〔しゅう酸無水物として、0.045w/v%(0.045w/w%)〕 水、残部(約99.95%)
化学式及び構造式	:	H ₂ C ₂ O ₄ ・2H ₂ O、C ₂ H ₂ O ₄ ・2H ₂ O、 しゅう酸二水和物の構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	126.07
官報公示整理番号	化審法	(2)-844
	安衛法	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	6153-56-6(しゅう酸二水和物として) (参考:しゅう酸無水物:144-62-7)
EC No.	:	205-634-3(しゅう酸無水物として)
危険有害成分	:	特になし

4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。 まぶたを親指と人さし指で捻げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、体内で希釈する。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状: 情報なし		

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本品は水溶液のため難燃性である。 周辺火災に適した消火剤を使用する。
使ってはならない消火剤	:	粉末消火剤、二酸化炭素、散水、噴霧水、泡消火剤など。 棒状放水(本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。)
特有の危険有害性	:	火災により、刺激性または有毒なガスが発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境への流出をできるだけ防止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は、空気呼吸器を含め完全な防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、ミスト、蒸気、粉じんなどを吸入しない。
環境に対する注意事項	:	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和	:	漏洩物は、ウエス、雑巾または土砂等に吸着させて、空のプラスチック製容器に回収後、発熱に注意しながらアルカリ剤で中和し廃棄処分する。 後処理として、漏洩場所は消石灰などのアルカリ溶液で中和した後、多量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材	:	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	:	事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 ミスト、蒸気、粉じんなどの発生を防止する。 容器をよく振った後、開封して使用する。 開封した場合は、直ちに使用する。 使用した規定液は、元の容器に戻さない(規定濃度が変化するおそれがあるため)。
局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	: 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 漏洩すると、材料を腐食させる危険性がある。 ミスト、蒸気、粉じんなどを吸入しない。 皮膚、粘膜等に触れると、炎症を起こすことがある。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	: 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	: 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件	: 容器は直射日光を避けて保管する。 容器を密閉し冷暗所に保管する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	: 水反応可燃性物質
容器包装材料	: ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):	
日本産衛学会	未設定
ACGIH	TLV-TWA 1mg/m ³ (しゅう酸として) TLV-STEL 2mg/m ³ (しゅう酸として)
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸用保護具(防じんマスクなど)を着用する。
手の保護具	: 保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製など)を着用する。
眼の保護具	: 眼の保護具(ゴーグル型保護眼鏡)を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて顔面用の保護具、長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 液体
色	: 無色澄明
臭い	: 無臭
pH	: 酸性
融点	: 約100 (水の融点に近似)
凝固点	: データなし
沸点	: 100 (水の沸点に近似)
引火点	: データなし
可燃性	: 水溶液のため難燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対ガス密度(空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: 1.00 g/cm ³ (20)
比重	: データなし
溶解度	: 水、エタノールに混和。
オクタノール/水分係数	: データなし
発火点	: データなし
分解温度	: データなし

粘度 : データなし
 動粘度 : データなし
 粒子特性 : データなし

GHS分類
 引火性液体 : 本品は水溶液で難燃性であることから、区分に該当しないとした。
 自然発火性液体 : 本品は水溶液で難燃性であることから、区分に該当しないとした。
 自己発熱性化学品 : 本品は水溶液で難燃性であることから、区分に該当しないとした。
 水反応可燃性化学品 : 本品は水溶液で安定である(水との混触で可燃性ガスの発生がない)ことから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)

: 通常取扱条件において安定である。
 危険有害反応可能性 : 強酸化剤と混触すると反応することがある。
 避けるべき条件 : 高温、日光
 混触危険物質 : 強酸化剤、水反応可燃性物質
 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

[本製品のデータがないため、「しゅう酸無水物」と「水」の混合物としてGHS分類した。]

急性毒性 : 経口 区分に該当しない。
 経皮 区分に該当しない。
 吸入(蒸気) 分類できない。
 吸入(ミスト) 分類できない。
 皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない。
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない。
 呼吸器感作性 : 分類できない。
 皮膚感作性 : 分類できない。
 生殖細胞変異原性 : 分類できない。
 発がん性 : 分類できない。
 生殖毒性 : 区分に該当しない。
 特定標的臓器毒性
 (単回ばく露) : 区分に該当しない。
 特定標的臓器毒性
 (反復ばく露) : 区分に該当しない。
 誤えん有害性 : 分類できない。

参考【しゅう酸無水物〔CAS No.144-62-7〕のデータ】

急性毒性 : 経口 飲み込むと有害(経口)(区分4)
 ラット LD50=475mg/kg、375 mg/kg (PATTY (5th,2001))
 経皮 区分に該当しない。
 ウサギでの、20000 mg/kg を not lethal とする報告(PATTY (5th, 2001))に基づき、区分に該当しないとした。
 吸入(蒸気) 分類できない。
 吸入(粉じん) 分類できない。
 皮膚腐食性/刺激性 : 本物質500 mg をウサギの皮膚に貼付した試験で軽度の刺激性がみられた (ACGIH (2015))。
 また、ヒトにおいても皮膚刺激性がみられたことから (ACGIH (2001)、PATTY (6th, 2012))、区分2とした。
 皮膚刺激(区分2)
 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : ヒトで眼にかなり重篤な火傷を生じるとの記載(ACGIH (2001))、及び眼に対して腐食性を示すとの記載(ICSC (J)(1996))から、区分1とした。
 重篤な眼の損傷(区分1)
 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 呼吸器感作性:分類できない。
 皮膚感作性:分類できない。
 生殖細胞変異原性 : 分類できない。
 発がん性 : 分類できない。
 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSАの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。
 生殖毒性 : 親動物への影響が不明な条件下で、同腹仔数の減少が報告(PATTY (5th, 2001))されているため、区分2とした。
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い(区分2)
 特定標的臓器毒性

- (単回ばく露) : ヒトで、吸入による 気道腐食性、及び肺水腫が指摘されている (ICSC (J)(1996)) ため、区分2 (呼吸器) とした。
呼吸器の障害のおそれ (区分2)
- 特定標的臓器毒性
(反復ばく露) : ヒトで、尿路結石の増加が報告されている (ACGIH (2001), PATTY (5th, 2001)) ため、区分1 (腎臓) とした。
長期又は反復ばく露による腎臓の障害 (区分1)
- 誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

[本製品のデータがないため、「しゅう酸無水物」と「水」の混合物としてGHS分類した。]

- 生態毒性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分に該当しない。
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。
残留性・分解性 : データなし。良分解性
生物蓄積性 : データなし。低濃縮性
土壤中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

参考【しゅう酸無水物〔CAS No.144-62-7〕のデータ】

- 生態毒性
水生環境有害性 短期(急性) : 甲殻類 (オオミジンコ) の48時間EC50 = 15mg/L
(環境省生態影響試験 (1998))
水生生物に有害 (区分3)
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。
急速分解性があり (TOCによる分解度: 100% (既存化学物質安全性点検データ)、かつ生物蓄積性が低いと推定される (log Kow = -2.22 (PHYSPROP Database (2005))) ことから、区分に該当しないとした。
残留性・分解性 : 良分解性。TOC分解度 = 100%
生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Kow = -2.22
土壤中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) (1)中和法
本品 (廃液) を攪拌しながら、廃液の酸度に応じたアルカリ溶液 (水酸化ナトリウムなど) を徐々に加えて中和し、大量の水と共に排水処分する。
(2)活性汚泥法
生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

- 国内規制 (適用法令)
陸上規制 : 特段の規制なし (分類上、非危険物)
海上規制 : 特段の規制なし (分類上、非危険物)
航空規制 : 特段の規制なし (分類上、非危険物)
国連番号 : 非該当
国連分類 : 非該当
品名 : 非該当
海洋汚染物質 : 非該当

